



「自動運転車の観光利用に関する意識調査 ～ 消費者の自動運転への態度とニーズ～」を発行

公益財団法人日本交通公社（会長 末永 安生）は、「自動運転車の観光利用に関する意識調査～消費者の自動運転への態度とニーズ～」を取りまとめた調査レポートを発行しました。

本調査は、自動運転車への消費者の態度を把握すること、及び自動運転利用へのニーズと活用場面のイメージを把握することを目的として実施したものです。調査結果は、自動運転が与える旅行市場への量的、質的なインパクトの大きさを予想させるものであり、観光地や観光産業の将来的な対応方向を考える上でのヒントにもなると考えられます。

<調査概要>

■調査方法：インターネット調査

■調査時期：2017年2月

■調査対象

一次調査：全国20代以上の男女（調査会社登録モニター）

二次調査：一次調査標本のうち、次の抽出条件を満たす人を、性別・年代別（20代～70代以上）の12区分毎に各100人、計1200人を抽出。うち無効票を除く有効回答数1,191票。

■抽出条件

- ・観光目的で宿泊を伴う自動車旅行回数が年間1回以上。
- ・観光目的の自動車旅行回数が年間3回以上（片道80km以上の日帰り旅行を含む）
- ・「これからの日本の社会や経済を考えた時、自動運転車は普及した方が良いと思うか」との質問に、「普及した方が良い」「どちらかというと普及した方が良い」「どちらかというと言わずに普及しない方が良い」と答えた人。「普及しない方が良い」「どちらとも言えない」「わからない」と答えた人を除く。

■有効標本数：一次調査：9,838票（有効回答数） / 二次調査：1,191票（有効回答数）

■主な調査項目

一次調査：[自動車旅行についての設問] [自動運転についての設問][属性]

二次調査：[自動運転についての設問][旅行全般の傾向についての設問]

<調査結果のポイント>

1. 消費者の自動運転への態度 [一次調査結果（標本数=9,838）]

～過半数が自動運転車の普及に肯定的～

- 自動運転車を用いた旅行が普及することのメリットの上位は、①「交通事故の減少」43.6%、②「渋滞運転でのストレス緩和」33.3%、③「高齢者が旅行しやすくなる」31.9%、④「運転から解放され時間を有効に使える」30.0%、⑤「遠い所に行くのが苦でなくなる」28.9%であった。
- 自動運転普及への課題としては、自動運転車の価格や事故防止の技術が上位となった。

- 自動運転車普及への態度は、「普及した方が良い」人が 57.6%と過半数である。「どちらとも言えない」16.8%、「わからない」11.0%の計 27.7%を除くと、普及に肯定的な人は約 8 割である。
- 自動運転車の利用方法は、「マイカーとしての利用」が 48.7%と約半数を占めた。「自宅から」または「旅行先で」レンタカーやカーシェアリングを利用したい人は 24.4%となっている。

2. 自動運転へのニーズと活用イメージ [二次調査結果 (標本数=1,191)]

～自動運転車が普及した場合、約 7 割が宿泊観光旅行が増えると回答～

- 自動運転車を利用した方が良いと思う場面は、①「寝不足や疲れている時」59.9%、②「道路が渋滞している時」56.7%、③「旅先で疲れがたまった時」47.5%、④「夜間の運転」45.5%、⑤「雨天時の運転」39.6%、⑥「飲酒したい時」35.6%の順である。
- 自動運転車を利用した観光活動は、①「温泉旅行」79.8%、②「自然観光」57.6%が上位となった。自動運転での訪問が増える観光地としては「北海道」との回答が目立った。
- 自動運転車を利用した宿泊観光旅行の日程では、①「時間帯を気にしないで出発するようになる」39.1%、②「帰路に睡眠を取ることが増える」33.5%、③「往路で睡眠を取ることが増える」33.4%、④「夜間の出発が増える」28.2%、⑤「今までよりも出発時間が早くなる」27.4%といった回答が多く、旅行の時間帯が広がる傾向が読み取れる。
- 旅行先での滞在時間が「延びる」との回答は合わせて 74%に上った。
- 旅行が増える時期としては、①「金曜出発の旅行」が 35.7%と高く、「土曜出発の旅行」も 14.9%を占め、金曜または土曜を挙げた人が 45.4%に上った。
- 季節では、「GW (ゴールデンウィーク)」13.7%、「紅葉シーズン」13.6%、「夏休み」11.1%、「年末年始」6.9%、「スキーシーズン」5.3%の順であった。
- 自動運転車が普及した場合、宿泊観光旅行が「増える」との回答が 70.6%を占めた。
- 利用交通機関の変化については、「自動運転車を利用すると高速道路の利用距離が伸びる」が 45.8%と最も多い。他の交通モードから自動運転への切り替えは、合わせて 32.5%に上る。
- 利用したいサービスとしては、①「レンタカー会社所有の自動運転車のレンタルサービス」40.6%、②「快適に車中泊ができる自動運転車」36.4%、③「渋滞状況や満車情報等に対応した最適なモデルコースの提示」20.5%の順で多くなった。
- マイカー購入の際に自動運転機能の装備に何万円くらい迄なら支払ってもよいかについて聞いたところ、「40 万円以上 50 万円未満」との回答が 20.2%と最も多い。
- レンタカーについては、「2 千円以上 3 千円未満」が 16.0%と最も多くなった。

当調査結果についての詳細は、当財団のウェブサイトをご覧ください。

<https://www.jtb.or.jp/research/theme/economic/self-driving-survey2017>

**公益財団法人日本交通公社は「観光文化の振興」に取り組む実践的学術研究機関として、
観光を通じた豊かな社会の実現に貢献します。**

<p>【お問い合わせ先】 観光文化情報センター 福永・清水 TEL : 03-5770-8360 Email : zaidan_info@jtb.or.jp</p>

Japan Travel Bureau Foundation